

卒業研究「組織とコミュニケーション - 若者が抱えるコミュニケーションの問題」

多摩大学経営情報学部梅澤ホームゼミナール 小池翼

1. 経緯

私は2、3年生次に高齢者を対象者とした「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト」を担当した。活動していく中で、プロジェクトメンバー内の同学年や後輩達でコミュニケーション不足による作業の遅れが起きた。コミュニケーション不足といっても、一番の原因はメールのやり取りである。メール自体を確認していなかったり、メールを確認していても内容を理解していなかったりなど理由は様々である。このようなコミュニケーションについての問題を現代の若者は同じように抱えているのではないかと感じ研究をするにいたった。

2. 目的

我々は生活する中で常に何らかの組織に所属している。コロナ禍において対面のコミュニケーションだけでなく、リモートやSNSの活用等コミュニケーションの方法は多種多様になった。自らの体験を踏まえ、現代の若者が抱えているコミュニケーションの問題について研究し考察していくこと目的である。尚、本研究は文献研究の手法をとった。

3. 若者が抱えるコミュニケーションの問題

そもそもコミュニケーションとは何か。どの分野でも広く認められているような一般的な認識の例として、収集した新聞記事の1つでは「コミュニケーションとは、我々がお互いを理解するためのやり取りである」とあった。一般的にこのような考え方で認識している人も多いだろう。しかし、記事でこの論文では組織において重要視される、「送り手の意図に基づく情報伝達」と定義づける。それでは現代の若者が抱えているコミュニケーションの問題とは何か。収集した新聞記事一つに「SNS時代で友人に短文で思いを簡単に伝えることは慣れていても、論理的に

文章を読み取り、書く能力は世界的にも低下しているようです。」とあった。対面でのコミュニケーションがしづらい現代では、メールやSNSなどといったツールは組織において、情報の伝達を担う重要な役割を持つ。しかし、若者が抱える上記の問題は情報の伝達に遅れ、チームワークの欠如につながる。上記の問題の自分のゼミ活動の経験を踏まえ、解決策を考察していく。

4. まとめと考察

自分がゼミ活動のプロジェクトを担当していた際、自分はメールでの内容を読み取らず、情報の伝達という部分ができていなかった。当時の先輩達は自ら積極的にメールで連絡を取り、情報の共有を欠かさなかった。さらに、メールの内容は情報の伝達というだけでなく、先輩自身がプロジェクトの意味、価値観を理解していたことが伝わり、よりプロジェクトについての理解を示していることが分かった。調べた文献の1つに「コミュニケーションとは情報の伝達だけでなく、意味、価値観の共有」という記述がある。若者が抱える論理的な文章を読み取り能力、書く能力の低下は、情報の意味、価値観の共有ができていないことに原因があると考えられる。現代の若者が抱えるコミュニケーションの問題を取り除くには、単なる情報伝達だけでなく送り手が共有したい意味、価値観を受け手側は理解する必要があると考察することができる。※BIZ UDP ゴシック体記述は引用箇所。

参考・引用文献

- 1) 清水勝彦『戦略と実行-組織的コミュニケーションとは何か』日経BP社、2011年
- 2) おかだみちお『コミュカとは言うけれど』朝日新聞、2018年
- 3) 定延利之『コミュニケーション原理-言語研究からの眺め』電子情報通信学会、2015年